

(様式2B) 個別箇所評価総括表【継続】(要領第5の2(1)関係)

分野	人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策	事業番号、事業名	14 急傾斜地崩壊対策			補助・単独別		補助	建設部 砂防課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度未進捗率	進捗状況			
1	ひらがわら 平川原2号 (佐久穂町)	もたれ式擁壁工 L=300m 重力式擁壁工 L=60m (工期:H18~H23) 2億4020万円	もたれ式擁壁工 L=127m 重力式擁壁工 L=4m 6000万円	もたれ式擁壁工 L=20m 1050万円	もたれ式擁壁工 L=20m 1050万円	必要性 B 重要性 A 効率性 A 緊急性 A	96%	計画どおり進んでいる。 擁壁工を引き続き実施する。 特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=7.00 住民参加状況等 特になし。	斜面中部に不安定な転石があるほか、斜面上部から崩れ落ちた落石が、斜面中部に堆積し、不安定な状況となっている。隣接する避難所でも落石があり、上斜面に危険な斜面が確認されているため、対策を推進し、H23完了を図る。	平成23年度での完了を図る。	「継続」
2	ころびいし 転石 (川上村)	落石防護補強土擁壁工 L=524.0m (工期:H20~H27) 4億円	落石防護補強土擁壁工 L=40.0m 4000万円	落石防護補強土擁壁工 L=40.0m 2020万円	落石防護補強土擁壁工 L=459.0m 2億7600万円	必要性 A 重要性 A 効率性 A 緊急性 A	31%	計画どおり進んでいる。 擁壁工を引き続き実施する。 特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=3.50 住民参加状況等 特になし。	過去に土砂流出が発生しており、治山事業と一体となって対策を実施し、早期の完成を図っている。保全対象の重要度も高いため事業進捗を図っていく。	重要性が高く、必要性、緊急性も認められる。	「継続」
3	あかさか 赤坂 (川上村)	重力式擁壁工 L=390m (工期:H22~H26) 3億円	詳細設計 1式 地質調査 1式 用地測量 1式 1500万円	重力式擁壁工 L=50m 2500万円	重力式擁壁工 L=390m 2億8500万円	必要性 A 重要性 A 効率性 A 緊急性 A	5%	計画どおり進んでいる。 測量設計が完了し、H23から工事に着手する。 特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=8.20 住民参加状況等 特になし。	保全対象には人家9戸、防災拠点である役場、公民館などがあり、H19年には小崩落が発生するなど災害履歴もあるため、早急に対策が必要である。	必要性、重要性、緊急性が認められる。	「継続」
4	あかいわ 赤岩 (東御市)	現場打吹付法砕工 L=180m A=2610m ² 連続繊維補強土工 L=180m A=2300m ² (工期:H18~H23) 3億3690万円	現場打吹付法砕工 L=22m A=276m ² 4150万円	連続繊維補強土工 L=20m A=800m ² 2020万円	連続繊維補強土工 L=20m A=800m ² 2020万円	必要性 B 重要性 A 効率性 B 緊急性 A	94%	計画どおり進んでいる。 連続繊維補強工を実施し、平成23年度完成予定。 特記事項 H23変更 連続繊維補強土工 1300m ² 減、事業費6310万円減 植生が良好なため、当面見送りとする。 B/C(費用対効果)=1.60 住民参加状況等 沢に設置した縦排水路については、地元で維持管理を行っている。	平成16年、平成18年に斜面中腹からの崩壊があり、今後の降雨等による更なる崩壊の危険性が高く、人家への影響も懸念されるため、早期の対策が必要であり、H23の完了を図る。	平成23年度での完了を図る。	「継続」

分野	人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策	事業番号、事業名	14 急傾斜地崩壊対策	補助・単独別	補助
----	------------------------	----------	-------------	--------	----

建設部 砂防課

番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
5	あなざわ 穴沢 (上田市)	重力式擁壁工 L=214m 連続繊維補強土工 L=163m A=1814㎡ (工期:H21~H25)	重力式擁壁工 L=49m 連続繊維補強土工 L=30m A=320m2	重力式擁壁工 L=58m 連続繊維補強土工 L=60m A=620m2	重力式擁壁工 L=107m 連続繊維補強土工 L=73m A=874m2	必要性 B 重要性 B 効率性 A 緊急性 A	92%	計画どおり進んでいる。 擁壁工、連続繊維補強土を引き続き実施する。	避難所が土砂災害 防止法に関わる、急 傾斜地の特別警戒区 域となることから、早 期に対策を行い、周辺 住民に対しては土砂 災害からの早期避難 を促すことで、ソフト対 策と連携した減災対 策を行う。	緊急性が認め られる。	「継続」
6	まさい 笹井 (上田市)	連続繊維補強土工 L=400m A=8600㎡ (工期:H20~H24)	連続繊維補強土 工 L=57m A=1227 ㎡	連続繊維補強土 工 L=40m A=600㎡	連続繊維補強土工 L=193.5m A=4317 ㎡	必要性 A 重要性 A 効率性 A 緊急性 A	44%	計画どおり進んでいる。 連続繊維補強土工を引き続き実施する。	笹井公民館(避難 所)、消防団倉庫と いった防災上重要な 施設が存在し、保全人 家も25戸と多い。落石 もあるため地元からの 要望が非常に強く、対 策が必要である。	重要性が高く、 必要性、緊急性 も認められる。	「継続」
7	こいわかど 小岩門 (上田市)	連続繊維補強土工 L=350m A=12300㎡ (工期:H21~H27)	用地測量 1式 立木補償 1式	連続繊維補強土 工 L=100m A=1500m2	連続繊維補強土工 L=350m A=12300 ㎡	必要性 A 重要性 B 効率性 A 緊急性 A	7%	計画どおり進んでいる。 用地測量が完了し、H23から工事に着手す る。	保全対象に災害時 要援護者施設となる 病院があり、民家は29 戸ある。斜面には小崩 落によるオーバーハン グが見られるため、早 期の対策を行う必要 がある。	必要性、緊急 性が認められ る。	「継続」
8	こくふ 国分 (上田市)	待受け擁壁工 L=170m 法枠工 L=80m A=700㎡ (工期:H22~H25)	詳細設計 1式 地質調査 1式 用地測量 1式	待受け擁壁工 L=40m	待受け擁壁工 L=130m 法枠工 L=80m A=700㎡	必要性 A 重要性 A 効率性 A 緊急性 A	12%	計画どおり進んでいる。 用地測量が完了し、H23から工事に着手す る。	保全対象には人家 17戸、災害時要援護 者施設である国分保 育園、避難路の市道 などがあり、落石が発 生するなど災害履歴も あるため、早急に対策 が必要である。	必要性、重要 性、緊急性が認 められる。	「継続」

分野	人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策	事業番号、事業名	14 急傾斜地崩壊対策	補助・単独別	補助
----	------------------------	----------	-------------	--------	----

建設部 砂防課

番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
9	よつ谷 (青木村)	吹付法枠工 L=125m A=1970㎡ (工期:H22~H23) 8100万円	吹付法枠工 L=105m A=1670㎡ 7100万円	吹付法枠工 L=20m A=300㎡ 1040万円	吹付法枠工 L=20m A=300㎡ 1000万円	必要性 B 重要性 A 効率性 B 緊急性 A	88%	計画どおり進んでいる。 吹付法枠工を引き続き実施し、平成23年度 完成予定。 特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=2.80 住民参加状況等 特になし。	当斜面は、土砂災害 防止法に関わる、急 傾斜地の特別警戒区 域となることから、早 期に対策を行い、周辺 住民に対しては土砂 災害からの早期避難 を促すことで、ソフト対 策と連携した減災対 策を行い、H23の完 了を図る。	平成23年度で の完了を図る。	「継続」
10	ゆわきの 湯の脇 (諏訪市)	連続繊維補強土工 L=220m A=4500㎡ 鋼繊維補強モルタル 吹付工L=182m A=4140㎡ 落石防護柵L=38.4m (工期:H18~H23) 2億5100万円	鋼繊維補強モル タル吹付工 L=72.2m A=1608㎡ 4000万円	鋼繊維補強モル タル吹付工 L=28m A=547㎡ 落石防護柵 L=38.4m 2020万円	鋼繊維補強モル タル吹付工 L=28m A=547㎡ 落石防護柵 L=38.4m 2020万円	必要性 A 重要性 A 効率性 A 緊急性 A	92%	計画どおり進んでいる。 吹付工、落石防護柵を引き続き実施する。 平成23年度完成予定。 特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=17.90 住民参加状況等 特になし。	平成18年7月豪雨に より、不安定化した斜 面は今後の降雨等に 更なる崩壊が発生す る可能性が高く、H23 の完了を図る。	平成23年度で の完了を図る。	「継続」
11	おおくま 大熊 (諏訪市)	連続繊維補強土工 L=280m A=11,500m2 (工期:H20~H26) 3億円	連続繊維補強土 工 L=23.7m A=1,434m2 2920万円	連続繊維補強土 工 L=30m A=2,000m2 3000万円	連続繊維補強土工 L=226.3m A=8,599m2 1億8280万円	必要性 B 重要性 A 効率性 A 緊急性 A	39%	連続繊維補強土を引き続き実施する。 特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=3.30 住民参加状況等 地元は対策に対しての関心が高いため、避難体制の整備および 施設の維持管理について、今後の地元説明会で積極的な関与 を検討中。	がけは急勾配で民 家に近接している。通 学路を保全対象とし ており、平成18年7月豪 雨の記憶の新しい住 民からは強い要望が ある。早期の対策が 必要。	重要性、緊急 性が認められ る。	「継続」
12	あまの 点沢 (岡谷市)	吹付法枠工L=410m A=8200㎡ (工期:H22~H26) 1億5000万円	詳細設計 1式 地質調査 1式 2070万円	吹付法枠工L=30 m A=600㎡ 2000万円	法枠工L=410m A=8200㎡ 1億2930万円	必要性 A 重要性 A 効率性 A 緊急性 B	14%	計画どおり進んでいる。 詳細設計が完了し、H23から用地測量を着 手する。 特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=5.90 住民参加状況等 特になし。	保全対象に人家20 戸のほか、避難路で ある県道がある。斜面 には小崩落も見られ、 早期に対策を行う必 要がある。	必要性、重要 性が認められ る。	「継続」

分野	人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策	事業番号、事業名	14 急傾斜地崩壊対策	補助・単独別	補助	建設部 砂防課
----	------------------------	----------	-------------	--------	----	---------

番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
13	ほし、おか 星が丘 (下諏訪町)	連続繊維補強土工 L=615m A=10,800m ² 植生基材吹付工 L=84m A=4000m ² (工期:H16~H24)	植生基材吹付工 L=80m A=3000 m ²	連続繊維補強土 工 L=60m A=600m ²	植生基材吹付工 L=80m A=3000m ²	必要性 A 重要性 A 効率性 A 緊急性 B	50%	計画どおり進んでいる。 連続繊維補強土を引き続き実施する。	隣接斜面で崩壊が 発生しており保全人家 も多いことから、早急 な対策を要する。	必要性、重要 性が認められ る。	「継続」
		2億8740万円	2000万円	2020万円	1億4260万円	特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=8.90 住民参加状況等 維持管理に関する組織づくりを検討中。					
14	じんだい 神代 (富士見町)	吹付法枠工 L=300m A=2500m ² 重力式擁壁工 L=225m もたれ式擁壁工 L=90m (工期:H20~H25)	吹付法枠工 L=26.9m A=360m ²	吹付法枠工 L=40m A=400m ² 重力式擁壁工 L=60m	吹付法枠工 L=220m A=1636m ² 重力式擁壁工 L=185m もたれ式擁壁工 L=90m	必要性 B 重要性 A 効率性 B 緊急性 A	33%	計画どおり進んでいる。 吹付法枠工、擁壁工を引き続き実施する。	がけは急勾配で民 家に近接している。避 難所となる神代公民 館、重要路線である国 道20号を保全対象とし ており、平成18年7月 豪雨の記憶の新しい 住民からは強い要望 がある。早期の対策 が必要。	重要性、緊急 性が認められ る。	「継続」
		2億7000万円	3200万円	3000万円	1億8100万円	特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=2.50 住民参加状況等 特になし。					
15	しんめいだんち 神明団地下 (伊那市)	連続繊維補強土工 L=588m A=12,000m ² (工期:H17~H24)	連続繊維補強土 工 L=40.0m A=579.8m ²	連続繊維補強土 工 L=50.0m A=1,000m ²	連続繊維補強土工 L=240.0m A=4,600m ²	必要性 A 重要性 B 効率性 A 緊急性 A	76%	計画どおり進んでいる。 連続繊維補強土を引き続き実施する。	斜面崩壊の履歴が あり危険性が高い。ま た、保全対象の小学 校は避難所にもなっ ており、重要性も高い。 事業については地元 との連携も行ってお り、今後も進捗を図る 必要がある。	必要性、緊急 性が認められ る。	「継続」
		4億5000万円	4000万円	3000万円	1億910万円	特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=5.1 住民参加状況等 特になし。					
16	たかとみかだいら 高遠中平 (伊那市)	連続繊維補強土工 L=90m A=1110m ² (工期:H22~H23)	連続繊維補強土 工 L=40.0m A=350m ²	連続繊維補強土 工 L=50.0m A=760m ²	連続繊維補強土工 L=50.0m A=760m ²	必要性 A 重要性 A 効率性 A 緊急性 A	35%	計画どおり進んでいる。 連続繊維補強土を引き続き実施し、平成 23年度完成予定。	保全対象には人家 15戸、福祉施設、避難 路となる国道152号が あり、落石の災害履歴 もあるため、早急に対 策が必要である。H23 の完了を図る。	平成23年度で の完了を図る。	「継続」
		6130万円	2130万円	4000万円	4000万円	特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=10.9 住民参加状況等 特になし。					

分野	人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策	事業番号、事業名	14 急傾斜地崩壊対策	補助・単独別	補助
----	------------------------	----------	-------------	--------	----

建設部 砂防課

番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
17	おのなかむら 小野中村 (辰野町)	重力式擁壁工 L=419m 連続繊維補強土工 L=30m A=1093㎡ (工期:H18~H24)	重力式擁壁工 L=41.5m	重力式擁壁工 L=70m	重力式擁壁工 L=142m	必要性 B 重要性 A 効率性 B 緊急性 A	77%	擁壁工を引き続き実施する。	平成18年7月の豪雨により不安定化した斜面は、今後の降雨等により更なる崩壊が発生する可能性が高く緊急性が高い。同規模の斜面崩壊による人家への被災を、最小限に止めるための対策が必要である。	予定工期内で完了を図る。	「継続」
		4億2995万8千円	3400万円	4000万円	1億円	特記事項 H18災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業を実施 B/C(費用対効果)=2.1 住民参加状況等 特になし。					
18	とば 渡場 (中川村)	もたれ式擁壁工 L=40m 連続繊維補強土工 L=300m A=6700m2 (工期:H19~H25)	連続繊維補強土工 L=37.5m A=920m2	連続繊維補強土工 L=70m A=1200m2	もたれ式擁壁工 L=40m 連続繊維補強土工 L=237.5m A=4780m2	必要性 B 重要性 B 効率性 B 緊急性 A	49%	計画どおり進んでいる。 擁壁工、連続繊維補強土を引き続き実施する。	平成18年7月豪雨により崩壊した斜面は、不安定となっており緊急性が高い。また、地形地質が同一の周辺斜面についても次期降雨による崩壊の危険性が高く、人家への直接的な被害の可能性があるので、早期な対策が必要である。	緊急性が認められる。	「継続」
		2億5320万円	3320万円	3000万円	1億3000万円	特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=2.5 住民参加状況等 特になし。					
19	かみやま 上山 (飯田市)	連続繊維補強土工 L=180m A=4500㎡ (工期:H21~H24)	連続繊維補強土工 L=85m A=1650㎡	連続繊維補強土工 L=50m A=1000㎡	連続繊維補強土工 L=60m A=2500㎡	必要性 A 重要性 A 効率性 A 緊急性 B	56%	連続繊維補強土を引き続き実施する。	災害時要援護者施設である保育所を保全対象にかかえているうえ、土砂災害防止法に関わる急傾斜の特別警戒区域にかかる人家があり、地元からの要望も高いことから、早期に対策を行う。	予定工期内で完了を図る。	「継続」
		1億1270万円	3850万円	4500万円	5000万円	特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=5.40 住民参加状況等 草刈り等の維持管理を地元で対応するべく検討中。					
20	はば 羽場2号 (飯田市)	重力式擁壁工 L=150m (工期:H22~H25)	測量調査 1式 詳細設計 1式	重力式擁壁工 L=30m	重力式擁壁工 L=150m	必要性 A 重要性 A 効率性 A 緊急性 A	10%	計画どおり進んでいる。 詳細設計が完了し、H23から工事に着手する。	保全対象には人家13戸、避難路となる市道や災害時要援護者施設があり、災害履歴もあるため、早急に対策が必要である。	必要性、重要性、緊急性が認められる。	「継続」
		1億5000万円	1500万円	3120万円	1億3500万円	特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=6.10 住民参加状況等 特になし。					

分野	人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策	事業番号、事業名	14 急傾斜地崩壊対策	補助・単独別	補助
----	------------------------	----------	-------------	--------	----

建設部 砂防課

番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
21	うめたいら 梅平 (飯田市)	もたれ式擁壁工 L=220m 落石防護柵工 L=40m (工期：H19～H24)	落石防護柵工 L=20m	落石防護柵工 L=20m	もたれ式擁壁工 L=220m 落石防護柵工 L=20m	必要性 B 重要性 A 効率性 B 緊急性 A	41%	計画どおり進んでいる。 落石防護柵を引き続き実施する。	過去に落石被害があり緊急性が高く、地元からの要望も強い ため、継続して事業を行う。	重要性が高く、 緊急性も認められる。	「継続」
		3億5000万円	2900万円	2500万円	2億710万円			特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=2.30 住民参加状況等 特になし。			
22	せいないじあおひら 清内路大平 (阿智村)	重力式擁壁工 L=100m もたれ式擁壁工 L=80m (工期：H22～H25)	測量調査 1式 詳細設計 1式	重力式擁壁工 L=60m	重力式擁壁工 L=100m もたれ式擁壁工 L=80m	必要性 B 重要性 A 効率性 A 緊急性 A	15%	計画どおり進んでいる。 用地測量が完了し、H23から工事に着手する。	保全対象には人家 17戸、避難路となる村 道などがあり、H19年 には小崩壊が発生す るなど災害履歴もある ため、早急に対策が 必要である。	重要性、緊急 性が認められ る。	「継続」
		1億円	1500万円	2020万円	8500万円			特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=7.40 住民参加状況等 特になし。			
23	ぬくた 温田 (泰阜村)	吹付法枠工 L=210m 法枠補修工 L=150m (工期：H22～H27)	測量調査 1式 詳細設計 1式	法枠補修工 L=50m	吹付法枠工 L=210m 法枠補修工 L=100m	必要性 A 重要性 A 効率性 A 緊急性 A	8%	計画どおり進んでいる。 用地測量が完了し、H23から工事に着手する。	保全対象には人家 22戸、避難路となる県 道などがあり、斜面に は小崩壊も見られ、早 急に対策が必要であ る。	必要性、重要 性、緊急性が認 められる。	「継続」
		2億円	1500万円	2000万円	1億8500万円			特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=5.70 住民参加状況等 特になし。			
24	こわき 小脇 (上松町)	重力式擁壁L=420m 落石防護柵工 L=450m 法面保護工L=45m A=1100㎡ (工期：H19～H26)	重力式擁壁 L=50m 落石防護柵工 L=50m	重力式擁壁 L=35m 落石防護柵工 L=35m	重力式擁壁 L=350m 落石防護柵工 L=350m 法面保護工L=45m A=1100㎡	必要性 B 重要性 A 効率性 A 緊急性 A	36%	擁壁工を引き続き実施する。	斜面の状況が不安 定で、花崗岩の風化 が顕著でマサ化が進 んでおり、転石が多く 小規模な崩壊や落石 があるため、対策が必 要である。	重要性、緊急 性が認められ る。	「継続」
		3億円	3320万円	3000万円	1億9330万円			特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=3.50 住民参加状況等 特になし。			

分野	人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策	事業番号、事業名	14 急傾斜地崩壊対策	補助・単独別	補助
----	------------------------	----------	-------------	--------	----

建設部 砂防課

番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
25	あづま 吾妻 (南木曾町)	吹付法砕工 L=150m A=3200㎡ (工期:H20~H23)	吹付法砕工 L=95.0m A=1300㎡	吹付法砕工 L=67.0mA=780㎡	吹付法砕工 L=67.0mA=780㎡	必要性 B 重要性 A 効率性 B 緊急性 A	86%	計画どおり進んでいる。 吹付法砕工を引き続き実施する。平成23年 度完成予定。	平成18年7月豪雨で 斜面の一部が崩落し、 緊急に対応した。前後 の斜面も崩落した斜 面と同じような状況で あり、崩壊の可能性が ある。がけ下の町道は 地元に必要な路線で あり、住民の不安の解 消のためにも早急な 対応が必要である。 H23の完了を図る。	平成23年度で の完了を図る。	「継続」
		1億7300万円	6700万円	2500万円	2500万円	特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=2.60 住民参加状況等 特になし。					
26	いやごう 伊谷2号 (木曾町)	重力式擁壁L=208m もたれ式擁壁 L=316m 落石防護柵工 L=524m (工期:H22~H26)	詳細設計 1式 地質調査 1式	もたれ式擁壁 L=100m	重力式擁壁 L=208m もたれ式擁壁 L=316m 落石防護柵工 L=524m	必要性 A 重要性 A 効率性 A 緊急性 A	10%	計画どおり進んでいる。 用地測量が完了し、H23から工事に着手す る。	保全対象に人家46 戸、避難路である県道 がある。斜面には不安 定な浮石も見られ、 H18には落石も発生し たため、早期に対策を 行う必要がある。	重要性が高く、 必要性、緊急性 も認められる。	「継続」
		2億円	2000万円	3000万円	1億8000万円	特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=9.80 住民参加状況等 特になし。					
27	のざわ 野沢 (松本市)	重力式擁壁工 L=156m U-フ付鉄筋挿入工 L=68m (工期:H19~H23)	U-フ付鉄筋挿入工 L=24m	U-フ付鉄筋挿入工 L=34m	U-フ付鉄筋挿入工 L=34m	必要性 B 重要性 A 効率性 A 緊急性 A	83%	計画どおり進んでいる。 鉄筋挿入工を引き続き実施する。平成23 年度完成予定。	近年、落石による被 害が発生しており、住 民による自衛対策にも 限界があるため、早急 に対策を進める必要 がある。H23の完了を 図る。	平成23年度で の完了を図る。	「縮小」
		1億7600万円	3200万円	3000万円	3000万円	特記事項 H23変更 延長 擁壁工 88m減、事業費4400万円減 延長減は保全対象範囲の精査による。 住民参加状況等 特になし。					
28	はしば 橋場 (松本市)	落石予防網工 A=4,248m2 落石防護柵工 L=270m (工期:H17~H24)	落石防護柵工 L=26m	落石防護柵工 L=53m	落石防護柵工 L=106m	必要性 A 重要性 A 効率性 A 緊急性 A	68%	落石防護柵を引き続き実施する。	保全対象範囲に人 家が多く、災害履歴が あることや地元による 自主防衛措置も実施 されていることから、 必要性・緊急性が高 い。	予定工期内で の完了を図る。	「継続」
		4億5000万円	4150万円	7544万5千円	1億4550万円	特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=4.90 住民参加状況等 特になし。					

分野	人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策	事業番号、事業名	14 急傾斜地崩壊対策	補助・単独別	補助
----	------------------------	----------	-------------	--------	----

建設部 砂防課

番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
29	まらさか こせば 桜坂小瀬幅 (安曇野市)	重力式擁壁工 L=439m 落石防護柵工 L=417m (工期:H21~H27)	用地測量 1式	落石防護柵工 L=30m	重力式擁壁工 L=439m 落石防護柵工 L=417m	必要性 B 重要性 B 効率性 A 緊急性 A	12%	計画どおり進んでいる。 用地測量が完了し、H23から工事に着手する。	がけ下には多くの保 全人家が存在して おり、斜面は大規模で ひとたびがけ崩れが 発生すれば避難路も 塞がれ、被害が甚大 になる可能性がある。 地元の受け入れ態勢 が整っているため早 期に対策を行う。	緊急性が認め られる。	「継続」
30	にしながの 西長野 (長野市)	吹付法砕工 L=100m A=2000㎡ (工期:H22~H24)	詳細設計 1式 地質調査 1式	吹付法砕工 L=35m A=800㎡	吹付法砕工 L=100m A=2000㎡	必要性 B 重要性 B 効率性 A 緊急性 A	12%	計画どおり進んでいる。 用地測量が完了し、H23から工事に着手する。	保全対象に人家38 戸、避難路である市 道がある。斜面には 不安定な浮石も見ら れ、落石も発生して いるため、早期に対 策を行う必要がある。	緊急性が認め られる。	「継続」
31	ふかさわ 深沢 (飯綱町)	連続繊維補強土工 L=250m A=2,500m2 (工期:H21~H24)	詳細設計 1式 用地補償 1式	連続繊維補強土 工 L=100m A=1,000m2	連続繊維補強土 工 L=250m A=2,500m2	必要性 B 重要性 A 効率性 A 緊急性 A	23%	計画どおり進んでいる。 用地測量が完了し、H23から工事に着手する。	避難所および重要 路線となる国道18 号が保全対象となっ ており、斜面には小 崩落に伴うオーバ ーハングも見られ ることから、早期 に対策を行う必要 がある。	重要性、緊急 性が認められ る。	「継続」
32	まつわ 狐沢 (飯綱町)	連続繊維補強土工 L=135m A=2355m2 落石防護柵工 L=134m (工期:H20~H23)	連続繊維補強土 工 L=37.6 A=750㎡ 落石防護柵工 L=43.5m	落石防護柵工 L=90.5m	落石防護柵工 L=90.5m	必要性 B 重要性 A 効率性 B 緊急性 A	80%	計画どおり進んでいる。 落石防護柵を引き 続き実施する。平 成23年度完成予 定。	H20に民家が破損 する災害を受けて いる。斜面は崩壊 を繰り返してきた 地形をしており、 今後も同様の災 害が発生する可 能性が高いため、 早期の対策を行 っていく。H23の 完了を図る。	平成23年度 での完了を図 る。	「継続」

分野	人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策	事業番号、事業名	14 急傾斜地崩壊対策	補助・単独別	補助
----	------------------------	----------	-------------	--------	----

建設部 砂防課

番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
33	いなり 稲荷 (高山村)	重力式擁壁工 L=156m 落石防護柵工 L=96m (工期:H21~H25)	重力式擁壁工 L=73m	落石防護柵工 L=66m	重力式擁壁工 L=83m 落石防護柵工 L=96m	必要性 B	32%	落石防護柵を引き続き実施する。	斜面は脆弱な地質であり、一部で崩壊しており、倒木・浮石もある。 倒木による家屋への被害を未然に防ぐため、住民により一部斜面の立木が伐採されているなど、早期な対策が必要である。	重要性、緊急性が認められる。	「継続」
		2億8000万円	7200万円	6150万円	1億9140万円	重要性 A 効率性 B 緊急性 A	特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=1.80 住民参加状況等 特になし。				
34	よこゆ 横瀨 (山ノ内町)	排水路工 L=215m 横ボーリング工 L=100m 法面保護工 A=5700m2 (工期:H21~H26)	詳細設計 1式 地質調査 1式	排水路工 L=215m 横ボーリング工 L=100m 法面保護工 A=600m2	排水路工 L=215m 横ボーリング工 L=100m 法面保護工 A=5700m2	必要性 B	23%	計画どおり進んでいる。 詳細設計が完了し、H23から工事に着手する。	斜面は過去の崩落土で地質的に脆弱であるため、崩落の跡が多数ある。また、斜面下には温泉街が立地しているため、地域の安全を確保するため、早期に対策を実施する必要がある。	重要性、緊急性が認められる。	「継続」
		1億2000万円	1500万円	3000万円	9220万円	重要性 A 効率性 A 緊急性 A	特記事項 B/C(費用対効果)=19.30 住民参加状況等 特になし。				
35	ながせ 長瀬 (栄村)	吹付法枠工 L=150m A=5,000m2 (工期:H22~H25)	詳細設計 1式 地質調査 1式	吹付法枠工 L=30m A=1,000m2	吹付法枠工 L=150m A=5,000m2	必要性 B	10%	計画どおり進んでいる。 詳細設計が完了し、H23から工事に着手する。	保全対象には人家2戸、避難所である東部小学校、避難路の県道などがあり、H18年に小崩落が発生するなど災害履歴もあるため、早急に対策が必要である。	重要性が高く、緊急性も認められる。	「継続」
		1億5000万円	1500万円	2020万円	1億3500万円	重要性 A 効率性 A 緊急性 A	特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=6.70 住民参加状況等 特になし。				
36	ひらたき 平滝 (栄村)	吹付法枠工L=300m A=7,500m2 アンカー工N=76本 連続繊維補強土工 A=1503m2 (工期:H21~H26)	吹付法枠工 L=40m A=595m2	吹付法枠工 L=30m A=350m2 アンカー工N=15本	吹付法枠工L=260m A=6,905m2 アンカー工N=76本 連続繊維補強土工 A=1503m2	必要性 B	15%	計画どおり進んでいる。 吹付法枠工を引き続き実施する。	斜面には小崩壊がいたるところにあり、上部の斜面滑落により人家の基礎部に被害が出ている。上部の国道は地域の重要路線でもあり、地元の要望も強いいため、早期に対策を行う。	重要性が高く、緊急性も認められる。	「継続」
		3億円	2500万円	9900万円	2億5600万円	重要性 A 効率性 B 緊急性 A	特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=1.40 住民参加状況等 特になし。				

分野	人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策	事業番号、事業名	14 急傾斜地崩壊対策	補助・単独別	補助
----	------------------------	----------	-------------	--------	----

建設部 砂防課

番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
37	やまざき 山崎 (筑北村)	重力式擁壁工 L=750m 吹付法砕工 L=100m A=2,000m2 (工期:H19~H25)	重力式擁壁工 L=104m	吹付法砕工 L=40m A=1,000m2	重力式擁壁工 L=530m 吹付法砕工 L=100m A=2,000m2	必要性 A 重要性 A 効率性 B 緊急性 A	40%	計画どおり進んでいる。 吹付法砕工を引き続き実施する。 特記事項 H22変更 延長450m増 事業費2億円増 工期3年増 精査の結果、近隣地域も含めた一体の区域として崩壊対策を行う必要が認められたため、計画区間の延伸を行った。 B/C(費用対効果)=2.04 住民参加状況等 特になし。	平成16年10月に斜面崩壊が発生しており、斜面はその後の降雨等により、さらなる崩壊のおそれがあるため、不安を感じる地域の要望があり、早期に対策を進めていく。	重要性が高く、必要性、緊急性も認められる。	「継続」
38	とりで 取出 (松本市)	もたれ式擁壁工 L=370m 重力式擁壁工L=45m (工期:H21~H25)	詳細設計 1式 地質調査 1式	重力式擁壁工 L=45m	もたれ式擁壁工 L=370m 重力式擁壁工L=45m	必要性 B 重要性 B 効率性 B 緊急性 A	14%	計画どおり進んでいる。 用地測量が完了し、H23から工事に着手する。 特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=2.60 住民参加状況等 特になし。	斜面にはオーバーハングや倒木が見られ、不安定な状況にある。保全人家が多く、避難場所も保全対象に含まれるため、早期に対策を行う。	緊急性が認められる。	「継続」
39	じょうだいら 地蔵平 (長野市)	吹付法砕工L=150m A=6962㎡ 落石防護柵工L=81m (工期:H20~H25)	工用道路 L=150m 用地補償 1式	吹付法砕工 A=900㎡ 落石防護柵工 L=51m	吹付法砕工 L=150m A=2962㎡ 落石防護柵工 L=81m	必要性 A 重要性 A 効率性 A 緊急性 A	59%	計画どおり進んでいる。 新工区の工用道路が完了し、H23から吹付法砕工に着手する。 特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=4.50 住民参加状況等 特になし。	保全対象に災害時要援護者施設を擁しており、斜面は倒木が目立つなど不安定な状況にある。早期の対応が必要。	必要性、重要性、緊急性が認められる。	「継続」
40	ふだき 札木 (長野市)	吹付法砕工L=70m A=2000㎡ (工期:H22~H23)	吹付法砕工 L=60m A=1500㎡	吹付法砕工 L=10m A=500㎡	吹付法砕工L=10m A=500㎡	必要性 B 重要性 A 効率性 A 緊急性 B	88%	計画どおり進んでいる。 吹付法砕工を引き続き実施する。平成23年度完成予定。 特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=5.50 住民参加状況等 避難体制の整備及び施設の維持管理について、今後の地元説明会で積極的な関与を促したい。	斜面崩壊により人家に影響が出ているうえ、保全対象として地域の生活道路となる市道を有しているため、早期に対策を行う必要があり、H23の完了を図る。	平成23年度での完了を図る。	「継続」

分野	人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策	事業番号、事業名	14 急傾斜地崩壊対策	補助・単独別	補助
----	------------------------	----------	-------------	--------	----

建設部 砂防課

番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
41	ゆやま 湯山 (長野市)	連続繊維補強土工 L=50m A=200㎡ 吹付法砕工 L=100m A=100㎡ 重力式擁壁工L=250m (工期:H21~H26)	詳細設計 1式	重力式擁壁工 L=100m	連続繊維補強土工 L=50m A=200㎡ 吹付法砕工 L=100m A=100㎡ 重力式擁壁工 L=250m	必要性 B	25%	用地測量が完了し、H23から工事を着手する。	斜面崩壊により人家に影響が出ているうえ、保全対象として地域の生活道路かつ避難路となる県道を有しているため、早期に対策を行う必要がある。	重要性が高く、緊急性も認められる。	「継続」
		重要性 A 効率性 A 緊急性 A				特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=5.50 住民参加状況等 避難体制の整備及び施設の維持管理について、今後の地元説明会で積極的な関与を促したい。					
42	ちわら 置原 (長野市)	法面保護工 L=30m A=1.100㎡ 重力式擁壁工 L=250m (工期:H22~H26)	詳細設計 1式 地質調査 1式	法面保護工 L=30m A=1.100㎡	法面保護工 L=30m A=1.100㎡ 重力式擁壁工 L=250m	必要性 B	7%	計画どおり進んでいる。用地測量が完了し、H23から工事に着手する。	保全対象には人家10戸、避難路となる市道などがあり、H18年には斜面崩落が発生するなど災害履歴もあるため、早急に対策が必要である。	重要性、緊急性が認められる。	「継続」
		重要性 A 効率性 B 緊急性 A				特記事項 特になし。 B/C(費用対効果)=1.70 住民参加状況等 特になし					
合計	42箇所	101億8215万8千円	13億2066万1千円	12億2664万5千円	57億1120万円	A: 配点の75%以上 B: 50%以上75%未満 C: 50%未満					

(様式2B) 個別箇所評価総括表【継続】(要領第5の2(1)関係)

分野	人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策	事業番号、事業名	14 急傾斜地崩壊対策(雪崩対策)			補助・単独別		補助	建設部 砂防課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
1	さとみ 里見 (小谷村)	雪崩予防柵工 L=1318.5m (工期:H14~H23)	雪崩予防柵工 L=50m	雪崩予防柵工 L=45m	雪崩予防柵工 L=45m	必要性 B	91%	計画どおり進んでいる。 雪崩予防柵工を引き続き実施し、平成23年度完成予定。	保全対象が多く、毎年小規模な雪崩が発生している。最近ではH17.12に雪崩が発生し、負傷者も出ていることから緊急性が高く、植生が良好な部分を除き、H23の完了を図る。	平成23年度での完了を図る。	「縮小」
						重要性 A	特記事項 H23変更 延長 雪崩予防柵 238m減、事業費3950万円減 植生が良好なため、当面見送りとする。				
		8億1350万円	8000万円	7010万円	7010万円	効率性 B	B/C(費用対効果)=2.69				
						緊急性 A	住民参加状況等 特になし。				
2	いおり 伊折 (小谷村)	雪崩予防柵工 L=410m (工期:H20~H28)	雪崩予防柵 L=35m	雪崩予防柵工 L=40m	雪崩予防柵工 L=375m	必要性 A	21%	計画どおり進んでいる。 雪崩予防柵工を引き続き実施する。	平成18年の豪雪では、斜面で雪崩が発生した。被害はなかったものの住民の不安が増している。地元との協力体制も整っており、早期に対策したい。	必要性、重要性、緊急性が認められる。	「継続」
						重要性 A	特記事項 特になし。				
		4億円	3000万円	2530万円	3億1800万円	効率性 B	B/C(費用対効果)=2.03				
						緊急性 A	住民参加状況等 特になし。				
3	いいた 飯田 (白馬村)	雪崩予防柵工 L=2300m (工期:H22~H28)	詳細設計 1式 地質調査 1式	雪崩予防柵工 L=44m	雪崩予防柵工 L=2300m	必要性 A	5%	用地測量が完了し、H23から工事を着手する。	保全対象に人家66戸のほか、避難路である村道がある。たびたび雪崩が発生し、地元からも要望が上がるなど、早期に対策を行う必要がある。	必要性、重要性、緊急性が認められる。	「継続」
						重要性 A	特記事項 特になし。				
		2億1000万円	1000万円	1110万円	2億円	効率性 A	B/C(費用対効果)=4.23				
						緊急性 A	住民参加状況等 特になし。				
4	くらもと 倉本 (飯山市)	雪崩予防柵工 L=228m (工期:H19~H25)	雪崩予防柵工 L=28m	雪崩予防柵工 L=40m	雪崩予防柵工 L=94m	必要性 A	48%	雪崩予防柵工を引き続き実施する。	平成18年豪雪により、雪崩が発生し既存施設が被災するとともに、山腹は裸地化した斜面となっており、早急な対策が必要である。	緊急性が高く、必要性、重要性も認められる。	「継続」
						重要性 A	特記事項 特になし。				
		3億円	3000万円	470万円	1億5500万円	効率性 A	B/C(費用対効果)=3.29				
						緊急性 A	住民参加状況等 特になし。				

分野	人家等に対する地すべり対策、急傾斜地崩壊対策	事業番号、事業名	14 急傾斜地崩壊対策(雪崩対策)			補助・単独別	補助	建設部 砂防課			
番号	ふりがな 箇所名 〔市町村名〕	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H22年度	H23年度	H23年度以降		H22年度末進捗率	進捗状況			
5	すずかわ 硯川 〔山ノ内町〕	雪崩予防柵工 L=160m 補強土壁工 L=60m (工期:H22～H26)	補強土壁工 L=60m	雪崩予防柵工 L=40m	雪崩予防柵工 L=160m	必要性 B	13%	計画どおり進んでいる。 補強土壁工が完了し、H23より雪崩予防柵 に着手する。	斜面が急勾配で立 木もないため、外的影 響を受けやすく、H22.2 月に雪崩が発生して 宿泊客に被害が及ぶ などの被害もあるた め、早急に対策が必 要な箇所である。	重要性、緊急性が 認められる。	「継続」
合計	5箇所	20億2350万円	1億9000万円	1億6500万円	10億310万円			A:配点の75%以上 B:50%以上75%未満 C:50%未満			